人権劇シナリオ

「性は、にじいろ」　～○○小レインボークラブ～

【１の場面】　プロローグ

子ども１	「みなさん、こんにちは。わたしたちは、○○小学校レインボークラブです！」
子ども２	「レインボークラブって、何？と思いますよね。」
子ども３	「今から、○っ子劇団で、レインボークラブについて劇をします。」
子ども４	「ぜひみなさんも、レインボークラブの仲間に入ってください。」
子ども５	「それでは、劇のはじまり、はじまりー。」

【２の場面】　学校の教室で①

山口先生	「今日は、男や女という性についての勉強をしましょう。」
子どもたち	「はーい。」
山口先生	「みんなのランドセルの色は、何色ですか？」
子ども６	「黒です。」
子ども７	「ピンクです。」
子ども８	「水色です。」
子ども９	「赤です。」
子ども１０	「オレンジです。」
子ども１１	「茶色です。」
山口先生	「いろんな色がありますね。でも、昔はなんとなく男の子は黒、女の子は赤と決まっていました。こんなふうに、男や女でなんとなく決まっていたことがほかにもありました。」

山口先生　「たとえば、お仕事もそうです。昔は、トラックの運転手さんは男の人、病院の看護婦さんは女の人、保育園の先生は女の人、というようにみんな思っていました。また、家で子育てや料理をするのは女の人、外で仕事をするのは男の人というのがふつうと思っていました。でも、今は女の人のトラック運転手さんもいます。男の看護師さんや保育園の先生もいます。家でも、イクメンといって子育てや料理をするお父さんも増えてきているんですよ。」

子ども１２　「うちのお母さんは、消防士だよ。」

子ども１３　「うちのお父さんは、料理がとっても上手だよ。」

山口先生　「そうだよね。どうして、こんな風に変わってきたんだと思いますか？」

子ども１４　「うーん。」

子ども１５　「むずかしいです。わかりません。」

山口先生　「そうだね。先生も子どもの頃は、男は男らしく、女は女らしくしなさいってよく言われていました。そんなふうに、この仕事は男の人がするもの、この仕事は女の人がするものっていつのまにか決められてしまっていて、本当はその仕事をしたいのに男だから女だからといってできなくなってしまっていたんですね。でも、男・女関係なく、自分らしく自分に合った仕事をしたいって思う人が増えたから、こんなふうに変わってきたんじゃないかと先生は思っています。」

子ども１６　「なるほど。」

子ども１７　「わたしも消防士になりたいと思ったら、なれるようになったんですね。」

山口先生　「先生も、前はピンクのものを買ったり、娘に少女マンガを買ってあげたりするときにとても緊張していたけど、最近は緊張しなくてすむようになりました。それは、まわりの人がそれをみても変な顔をしたりしなくなったからだと思います。こんなふうに、みんなも、男らしく、女らしくだけじゃなくって、自分らしく生きてもいいよねって思うようになってくれたら先生はうれしいなあと思います。どうですか？」

子ども１８　「ぼくも将来保育園の先生になりたいから、それがいいと思います。」

山口先生　「ありがとう。これで、今日の勉強を終わります。」「れい」

【３の場面】　学校の帰り道で

子ども１９　「ねえねえ、今日の先生の話、どう思った？わたし家で女の子らしくしなさいっていつも言われるよ。」

子ども２０　「うんうん。ぼくも男らしくしなさいって言われる。それって、いけないことなのかなあ。」

子ども２１　「マツコデラックスさんやはるな愛さんは、自分らしく生きている人なのかなあ。どうして、あんなふうにしてるんだろう？」

子ども２２　「なんかこの間、東京では男の人同士や女の人同士が結婚できるようになったってテレビのニュースで言ってたけど、ホントなのかなあ？」

子ども２３　「うーん。なんかわかんないことがいっぱい。明日、先生にきいてみようよ。」

子どもたち　「そうだね。」

【４の場面】　職員室で

子ども２４　「失礼します。担任の山口先生に用があってきました。入ってもいいですか。」

山口先生　「はい。どうぞ。」「どうしたの？」

子ども２５　「実は、昨日の自分らしくっていう勉強のことで、わからないことがいっぱい出てきちゃったんです。たとえば、…」

山口先生　「なるほどね。みんないろんなこと感じてくれたんだね。先生もうれしいよ。じゃあ、みんなでもっとくわしく性について勉強してみない。」

子ども２６　「したいです！お願いします！」

山口先生　「わかりました！じゃあ、今度、性についてとってもくわしい、先生の友だちに教室で話をしてくれるようにたのんでみるね。」

子ども２７　「やったー！」

【５の場面】　学校の教室で②

山口先生	「今日は、この間の続きで自分らしく生きるという勉強をしましょう。今日は、先生の友だちでとっても自分らしく生きているアキラさんに来てもらいました。アキラさん、よろしくお願いします。」
アキラさん	「みなさん、こんにちは。はじめまして。わたしはアキラと言います。」
子どもたち	「こんにちは。よろしくお願いします。」
アキラさん	「みんなは、朝起きたら体が入れ替わっていたとしたらどうですか？たとえば、男の子が朝起きたら女の子の体になってたとか、逆に女の子が朝起きたら男の子の体になってたとか。」
子ども２８	「えー。」
子ども２９	「いやだ。」
子ども３０	「ショックだと思う。」
アキラさん	「そうだよね。実はわたしはずっとそんな感じだったんです。」
子どもたち	「えー！」（びっくり１段階）
アキラさん	「わたしは、小さいときから自分は女の子だと思っていました。でも、保育園の頃に、自分の体は男の子の体なんだって気づいて、どうしてなんだろう？っていつも不思議に思っていました。 小学校の時には、いつも家で『もう少し、男らしくしなさい』って言われたり、友だちからからかわれたりしました。でも、そう言われても心の中が女の子なので、どうすればいいのわかりませんでした。がんばって男の子らしくしようとしたけど、何か劇の役をしているみたいな感じでぜんぜんうまくいきませんでした。 中学校の時には、好きな男の子ができました。でも、その男の子が『男同士とか女同士とかで結婚するとか気持ち悪いよね。』と話しているのを聞きました。それを聞いて、『もう誰にも本当のことを話せずに、ひとりぼっちで生きていくしかないんだ。』と思いました。 そんなわたしが変わったのは、高校生の時です。仲のよかった友だちに、はじめて自分のことを話しました。すると、その友だちは『ずっと悩んでいたんだね。思い切って話してくれてありがとう。あなたは、そのままのあなたでいいと思うよ。』と言ってくれました。はじめてわかってくれる人に出会って、なんだか生き返ったような気がしました。

実は、その人が山口先生なんです。」

子どもたち　「えー！！」（びっくり２段階）

子ども３１　「先生、ほんとなの？」

山口先生　「えへへ。実はそうなんです。アキラさんは、高校を卒業してから、同じように性のことで自分らしく生きたいと思っている人といっしょにグループをつくって、性で悩んでいる子どもたちの相談に乗っているんだよ。それと、今は好きになった男の人と家族として暮らしているんだよ。」

子どもたち　「えー！！！」（びっくり３段階）

子ども３２　「すごい！」

子ども３３　「じゃあ、アキラさん。男らしく、女らしくってだめなんですか？」

アキラさん　「そんなことないですよ。男の子が男の子らしくするのが自分らしいって思ったら、それでいいと思いますよ。それは、女の子も同じ。でも、わたしみたいにそうじゃない人もいるんだって、わかっておいてほしいな。」

子ども３４　「そっか。『自分らしく』っていうのが大切なんですね。」

子ども３５　「わたしたちにもっとわかっておいてほしいことってないですか。」

アキラさん　「そうだね。もし、性のことで友だちから相談されたら、山口先生みたいに『話してくれてありがとう』って言ってほしいです。だって、本当に勇気を出して相談しているんだから。それと、あなたにだけ相談しているんだから、そのことは勝手に他の人に話さないようにしてほしいです。」

子ども３６　「でも、相談されても何もしてあげられないかも。」

アキラさん　「ううん。あなたがわかってくれているだけで十分なんだよ。でも、わかってくれる友だちを増やせたらいいよね。それとか、一緒にわたしたちのグループに相談しに来てもいいですよ。」

山口先生　「もし、アキラさんのグループに相談したかったら、先生に言ってね。」

子ども３７　「わかりました！ありがとうございます。」

【６の場面】　学校の帰り道で　（女の子３人）

子ども３８	「今日のアキラさんの話、すごかったよね。」
子ども３９	「うん。性って男と女だけじゃないんだね。いろいろあるんだって、はじめて知った。」
子ども４０	「えっと…。あのね…。実は…。」
子ども 38･39	「どうしたの…？」
子ども４０	「わたし、ずっと悩んでたんだ…。自分は男の子なのに、どうして体は女の子なんだろうって…。」
子ども 38･39	「えー！！！！！」 （二人顔を見合わせて）「話してくれてありがとう！」
子ども４０	「よかったー。きっと二人だったらそう言ってくれると思ってた。」
子ども３８	「こちらこそ、信じてくれてありがとう！」
子ども３９	「何か、わたしたちにできることない？」
子ども４０	「実は…。アキラさんみたいなグループをつくりたいんだ…。」
子ども３８	「いいねー！」
子ども３９	「じゃあ、グループの名前を決めようよ！何がいい？」
子ども４０	「実は…。それも決めてるんだ…。レインボークラブってどう？だって、性はにじいろみたいにいろいろあるから。」
子ども 38･39	「いいねー！○○小学校レインボークラブ！！」

【７の場面】　エピローグ

子ども４１	「みなさん、劇はどうでしたか？」
子ども４２	「性って、男と女だけではなくて、にじいろなんですね。」
子ども４３	「男らしく、女らしく、だけではなく、自分らしく生きる生き方もあるんですね。」
子ども４４	「みなさんは、相談されたら『話してくれてありがとう！』って言えそうですか。
子ども４５	「わたしたちが住んでいる佐賀市にも、去年、性で悩んでいる子どもたちを応援するグループができたそうです。」
子ども４６	「もし悩んでいる人がいたら、先生に相談してみてください。そのグループの人に相談できるように話をしてくれます。」
子ども４７	「その他にも、図書館に性についての本があります。」
子ども４８	「みんなで、いろんな性について勉強していきましょう。」
子ども４９	「これでみんなも〇〇小レインボークラブの仲間ですね！」
子ども５０	「これで〇っ子劇団の劇を終わります。れい。」
子ども全員	「ありがとうございました！」